

2010年5月31日

【モニタリングレポート】

地域金融機関 CLO シンセティック型（株式会社たんぽぽ 2007）

第1回A号無担保社債（責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定）：AAA

第1回B号無担保社債（責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定）：AAA

格付投資情報センター(R&I)は上記の債券のモニタリングレポートを公表しました。

【コメント】

2010年4月30日にA号社債およびB号社債の元本を全額償還した。発行日（2007年2月28日）から2010年4月27日までの期間（計算期間）における参照債務の累積クレジットイベント発生率は約6.27%であった。このほか、計算期間末日時点でクレジットイベント通知債権が3件発生している。これら債権をクレジットイベントに含めた場合の累積クレジットイベント発生率は約6.32%となる。

【格付対象】

発行者	株式会社たんぽぽ 2007
名称	第1回A号無担保社債 (責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定) 第1回B号無担保社債 (責任財産限定特約付及び適格機関投資家限定)
金額	第1回A号無担保社債:0円(当初269億円) 第1回B号無担保社債:0円(当初4.8億円)
発行日	2007年2月28日
予定償還期日	2010年4月30日
最終償還期日	2010年6月30日
償還方法	パススルー (A号無担保社債、B号無担保社債の割合に応じたプロラタ償還)
裏付資産	クレジットデフォルトスワップ契約、預金
参照債務	中小企業が発行する貸付債権プール (3件 16,176,000円 当初:1190件 304.84億円)
信用補完	優先劣後構造
オリジネーター	青森銀行、みちのく銀行、荘内銀行、岩手銀行、神奈川銀行、静岡中央銀行、宮崎太陽銀行、八千代銀行、仙南信用金庫、福島信用金庫、朝日信用金庫、亀有信用金庫、足立成和信用金庫、西京信用金庫、城北信用金庫、長野信用金庫、金沢信用金庫、北伊勢上野信用金庫、桑名信用金庫、京都信用金庫、摂津水都信用金庫、神戸信用金庫、兵庫信用金庫、福岡ひびき信用金庫、鹿児島相互信用金庫、長野県信用組合
スワップカウンターパーティー	各オリジネーター
私募の取扱者	みずほ証券
格付	第1回A号無担保社債:AAA(償還時) (個別信用補完:第1回B号無担保社債、第1回C号無担保社債、免責金額) 第1回B号無担保社債:AAA(償還時) (個別信用補完:第1回C号無担保社債、免責金額)

お問い合わせ先 **格付投資情報センター** インベスターズ・サービス本部 〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-4-1 日本橋一丁目ビルディング

TEL.03-3276-3511 FAX.03-3276-3413 <http://www.r-i.co.jp> E-mail infodept@r-i.co.jp

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等を約定通りに履行する確実性（信用力）に対するR&Iの意見の表明であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<http://www.r-i.co.jp/jpn/policy/policy.html>をご覧ください。

備考	格付は、最終償還期日までに第1回A号無担保社債、第1回B号無担保社債の元本が全額償還され、期日通りに利払いされる可能性を評価している。
----	---

【モニタリングのポイント】

本件では、元本と配当の受け取りの順にA号社債、B号社債、C号社債および免責金額を設定している。各社債について、それよりも元本の受け取り順位が低い社債の元本金額合計および免責金額が信用補完となっている。免責金額は、各参加金融機関が募集した債権プール（参照債務）に対応している。本件では26の参加金融機関が貸付債権の募集を行い、それぞれの参加金融機関に対応した26の免責金額を設定している。各免責金額は、対応する参加金融機関の貸付債権の損失のみを負担し、他の参加金融機関の貸付債権の損失を負担することはない。A号社債、B号社債およびC号社債は、各免責金額を超える損失を貸付債権を募集した参加金融機関によらず負担する。なお、CDS契約上の免責金額は15.1億円であり、期中に減額することはない。

モニタリングにあたっては、損失額に加え、その損失の分布（どの参加金融機関のプールの損失なのか）に着目し、各受益権の格付が妥当なものであるかどうかを確認している。

【経過と見通し】

2010年4月30日にA号社債およびB号社債の元本を全額償還した。発行日から計算期間末日までにクレジットイベント発生債権が132件、計算期間末日時点でクレジットイベント通知債権が3件発生している。なお、R&Iは、本件のパフォーマンスおよび主にC号社債の元本残高を勘案し、2010年2月24日付けでB号社債の格上げを行い、AAAで償還した。

参照債務の状況は以下のとおりである。

	2007/2/28	2010/4/27
参照債務残高	30,484,000,000 円	16,176,000 円
参照債務残高率	100%	0.05%
クレジットイベント通知後未認定債権元本金額	0 円	16,176,000 円
クレジットイベント通知後未認定発生率	0%	100.00%
延滞債権元本金額	0 円	0 円
延滞率	0%	0.00%
累積クレジットイベント債権元本金額	0 円	1,909,930,074 円
累積クレジットイベント発生率	0%	6.27%
債務者数	1190 件	3 件

元本残高率：

計算期間末日の元本残高／当初債権元本残高

クレジットイベント通知後未認定債権元本金額：

計算期間末日でクレジットイベント通知後未認定である債権元本金額

クレジットイベント通知後未認定発生率：

計算期間末日でクレジットイベント通知後未認定である債権元本金額／計算期間末日の債権元本残高

延滞債権元本金額：

計算期間末日時点で3カ月未満の延滞である債権の元本金額

延滞率：

計算期間末日の延滞債権元本金額／計算期間末日の債権元本残高

累積クレジットイベント債権元本金額：

計算期間末日時点のクレジットイベント発生債権の累計元本金額

累積クレジットイベント率：

計算期間末日の累積クレジットイベント発生債権元本金額／当初債権元本残高

クレジットイベント債権：

クレジットイベント債権は、参照債務の借入人（参照組織）について CDS 契約に定められた信用事由（法的破綻、参照債務の 3 カ月以上の延滞、リストラクチャリング等）が発生した債権をいう。